



### ❖ 新川第二町内会

新川第二町内会は新川中央地区に位置しており、新川第一町内会と同様の経緯で昭和45年（1970年）に発足しました。JR札沼線（学園都市線）と茨戸街道（琴似栄町通り）にはさまれた細長い町内です。JR新川駅（昭和61年（1986年）臨時乗降場として新設）が町内会の中心部に位置しており、商店・飲食店・医療機関や企業の建物も多く、環境に恵まれた地域です。昭和30年代までは農家が6軒しかない地域でした。

町内会は、公園で行うレクリエーションで会員同士の親睦・交流を図ったり、花壇整備など町内の環境美化に取り組んでいました。しかし、町内会加入世帯数の減少や役員の担い手不足などによって、従来行ってきた活動の維持が難しくなり、令和元年（2019年）限りで連合町内会を休会しています。



### ❖ 新川第三町内会

新川第三町内会は新川中央地区に属しており、昭和45年（1970年）に約90世帯で発足。その後、アパートなどの集合住宅や、ダイヤモンドメゾン新川、クリーンリバー新川といった中・大規模マンションや一般住宅が建つなどして発展してきています。この間、町内会の役員と会員の方々は、暮らしの様々な基盤整備に努め、町づくりや町内会活動に熱心に取り組んできました。この町内の方々の町づくりへの気概や町を想う愛情は連綿と受け継がれ、現在も防犯防災、交通安全の活動や老人の方々の見守り、役員のゴミパトロールや会員のゴミステーション管理当番による環境整備、町内会行事の推進など、役員と会員の皆さんが一体となって住み良い環境づくりに熱心に取り組んでいます。

町内会行事は、昭和58年（1983年）から太陽公園を会場にカラオケ大会を開催していましたが、31回大会で終了しました。その後は、親睦会や新年交礼会を日帰り温泉施設で開催してきました。しかし新型コロナ感染の影響もあり温泉施設の利用を控え、親睦会に赤ちゃん誕生祝いや新入会員歓迎会も加えて実施するなど工夫しながら開催しています。また、公園を含む町内の清掃には子どもたちも参加し、七夕会や「子ども110番の家」を探索するオリエンタリングも併せて実施しています。このように、新川第三町内会は人とはもとより様々なつながりを大事にし、安心安全できれいで潤いと温もりのある住み良い町内となるよう取り組んでいます。





### ❖ 新川第四町内会

新川第四町内会は新川中央地区に位置しており、昭和43年（1968年）に新川中央町内会の第五分区として町内会活動を始めておりますが、新川第一町内会と同様に昭和45年（1970年）に正式に発足しました。

町内には、JR新川駅があり、トーカンマンション新川中央（73戸）やパシフィック新川（126戸）といった中・大規模マンションも建っており、市内中心部への交通の便が良い地域です。また、新川中央小学校、新川中学校、新川中央児童会館もあり、文教地区の一面もあります。さらに、スーパーや大手ドラッグストアもあり、買い物にも便利な地域です。

令和3年（2021年）には、長く町内会長を務めておられた遠藤春雄氏のご厚意により、所有している家屋を提供していただき町内会の集会所（ひまわり集会所）として利用できるようになっています。

町内会では、お花見会（バーベキュー）、ボウリング大会などのレクリエーションや、子ども会と一緒に年々の防犯・防火パトロールなどで会員同士の親睦と交流を図っています。



### ❖ 新川第五町内会

新川第五町内会は昭和45年（1970年）に14班250世帯で発足しました。現在は37班700世帯になっております。

新川連合町内会発足までの2年間、新川中央地区8町内会の相談まとめ役を担っていました。

町内会では、札幌市から受託する公園管理や町内の清掃、花壇整備・花苗植えに力を入れ、町内の美化を維持する活動に努めております。また、毎月第一土曜日に資源回収を行って、その収益は町内会行事に活用しています。町内会行事は、新年交礼会をはじめとして、パークゴルフ大会、焼肉パーティ（旧ジンギスカンパーティ）、敬老会、年末パトロール、児童部の七夕まつりやクリスマス会などを実施しています。令和元年（2019年）に発生した新型コロナウイルス感染症のため行事が中止になる中、コロナ禍でも行事が実施できるように知恵を出し合い工夫して実施しています。これらの親睦行事の開催や高齢者の見守り活動、親子の交流の場を提供するなど、年間を通して様々な行事を行いながら、子供たちの健全育成と安全で住みよい町内会を目指して活動を続けています。



### ❖ 新川第六町内会

新川第六町内会は、新川中央地区の他の町内会と同様に昭和45年（1970年）に200余りの世帯で発足しました。発足当初は、町内の道路整備や街灯増設などに取り組んでいました。

町内には、昭和から平成にかけて、個人商店やスーパー、銭湯などもありましたが、時代の変化に伴って事業の継続が困難になり閉店されてしまいました。また、町内にある新川地区会館（昭和59年（1984年）落成）は、町内の澤田政雄氏が寄付した土地に建てられ、新川まちづくりセンターが併設されており、地域住民に利用されています。

町内会の活動は、町内一斉清掃や道路脇の柵花壇に花苗植えを行って町内の美化に努めたり、新年交礼会、親睦日帰り旅行、もちつき大会などを通じて会員の親睦と交流を図っています。



### ❖ 新川中央第七町内会

新川中央第七町内会は、他の新川中央地区の町内会と同時期の昭和45年（1970年）に発足しました。町内会名に唯一「中央」が入っているのは、前身の「新川中央町内会」の名残です。他に比べてこじんまりとした町内ですが、活動は活発で、発足した年から町内会単独で盆踊り大会を実施したり、昭和46年（1971年）には、町内の山田豊氏所有の土地に独自に児童公園を造成（現在のちから公園）したり、昭和53年（1978年）には、廃車バスを利用した町内集会所を造ったりと、他の町内会の先駆けになるような活動を行ってきました。周年記念行事は公園を会場に夏祭りを盛大に開催してきました。記念事業の一環として、平成7年（1995年）に山田ハツエ氏（山田豊氏の妻）から土地の無期限・無償貸付を受けて、会員からの寄付金・市助成金・町内会基金を建設費として町内会館を建設し、町内会の会合などに利用しています。



町内会行事は、新年交礼会、ボウリング大会、町内大掃除、夏休みラジオ体操、バーベキュー大会、敬老交歓会、日帰り温泉ツアー&パークゴルフ、もちつき大会、歳末防火防犯パトロールと、家族を含めて会員同士が交流できる機会を多く設けています。



### ❖ 新川第八町内会

新川第八町内会は、新川中央地区の他の町内会と異なり、昭和45年（1970年）に発足した新川第四町内会から、昭和57年（1982年）に分割し発足しました。町内会が接する札幌新道（国道5号線）沿いには、様々な業態の多くの企業が事業を営んでいます。

町内会行事は、新年交礼会、春の花苗植栽、レクリエーションを実施しています。また、公園管理を受託したり、ゴミステーションの維持管理に力を入れるなど町内の美化に努めています。



### ❖ 新川ポプラ町内会

新川ポプラ町内会は、新川中央地区の他の町内会と同様に昭和45年（1970年）に数十世帯で発足しました。名称の由来は、現在のポプラ公園（札幌新道に面した新道整形外科病院の裏）の場所に当時ポプラの大木が何本もあり、ポプラ町内会と命名したと言われています。

設立当時の札幌市は、昭和45年に人口が100万人を突破、昭和47年の札幌オリンピック開催や、政令指定都市移行に向けた整備がされていました。そのような中、町内会に接している札幌新道（宮の沢～北34条間）が昭和46年に開通、昭和50年4月に新琴似南小学校、翌年4月には新川中学校が開校されました。道路・交通関係、文教環境、上・下水道の完備など、住環境インフラの充実に伴い町内会の世帯も増加し、発足20周年ごろには加入世帯が466戸と、現在とほぼ同等の世帯数となっていました。令和5年（2023年）11月現在、町内世帯数は約520戸、そのうち約450戸が会員で班数は23班となっています。

他地区と同様、高齢化率の高い町内会となっていますが、近年は世代交代の兆しが見え、若いファミリー世帯が増え始め小学校入学者数が年々増加して来ました。新川ポプラ町内会では、新年交礼会、パートナーシップ除排雪事業、春・秋の町内一斉清掃、5月～11月毎日曜日の3公園清掃管理の取組み、夏休みのラジオ体操を役員・有志・子供会合同で実施。子供夏祭り、敬老会、日帰り温泉旅行、ボウリング大会等と会員の世代間交流に努めております。

今後は、高齢者世帯の孤立化の防止、防犯防災・災害対策など、役員と会員の皆さまと一緒に安心安全な住みよい環境を守って行きます。



## ❖ 新川東町内会

新川東町内会は、昭和51年（1976年）に新川みどり町内会と共に、新川町内会から分離して325世帯で発足しました。発足当初は畑地が多く、住宅がまばらな町内でしたが、やがて大手スーパーや高速道路のインターチェンジができたことなどにより、住環境が整って住宅地として発展してきました。

町内会では、新年交礼会、新川ポプラ町内会との合同盆踊り大会、美化美化運動、花いっぱい運動、子どもの見守り活動など、老若男女が参画できる活動を行っています。また、町内会広報紙である「東町内会たより」を毎月発行して町内会活動を会員に周知しています。なお、発行Noも令和5年11月1日発行分で270号になり、世帯数も令和5年6月1日現在では、1,211世帯となりました。世帯数の増加により活気ある町内会になり、喜ばしいことと思っております。

今後は、高齢化がますます進むと思いますが、心豊かな人たちが住む町内会であってほしいと願っています。



## ❖ 新川みどり町内会

新川みどり町内会は、新川東町内会と共に昭和51年（1976年）に新川町内会から分離して約200世帯で発足しました。発足時には、畑地や牧草地の中に住宅が点在している状況でした。その後、地域開発により宅地造成が進み居住者が急増しました。

みどり町内会では、新年交礼会からはじまり、成人のお祝い品贈呈、車道脇花壇への花苗植え、公園での盆踊り大会、通学時の子ども見守り活動、日帰りバスツアー、クリスマス会など、幅広い年代が交流できる行事を中心に行っています。

発足から47年を経た現在、総世帯数は1,330世帯、約3,500人が住む大きな町内会へと発展しました。居住世帯の町内会への加入率は98%を超え、札幌市内の自治会（町内会）の中でも高い加入率を誇ります。この加入率を維持してこられたのは、発足当時からの町内会役員の方々の努力の賜物です。

歴代役員として従事された人数は、会長職が9名、副会長が34名、会計担当15名、総務部長16名、専門部部長109名、副部長は235名になります。

これからの50年100年後には、世代を超えてこの生活住環境も整った文教地区でもある新川みどり町内会は益々発展してしていくことでしょう。





## ❖ 新川町内会

新川町内会は、部有地部落会から町内会として昭和42年（1967年）に戸数64戸で発足しました。発足時は、現在の新川東町内会と新川みどり町内会の区域を含む広大な地域でした。その後の宅地造成などによる戸数増加に伴い、昭和51年（1976年）に新川東町内会と新川みどり町内会が分離しました。

新川町内会の区域には、新川小学校、新川西中学校、新川高校、札幌国際情報高校と小学校から高校まで揃っています。また、北区歴史と文化の八十八選にも選ばれている「新川開基百年記念碑」（新川4条14丁目新川中央公園内）や「近藤牧場」（新川694番地）もあります。平成11年（1999年）に町内に新川記念会館が開館し、会議や葬儀で利用されていましたが、令和2年（2020年）に閉館し、その後は一般企業の社屋になっています。

新川町内会では、新年交礼会、町内清掃、盆踊り大会、日帰りレクリエーションなど、他の町内会とほぼ同様の活動を行っています。



## ❖ ビレッジハウス新川自治会

ビレッジハウス新川自治会は、新川町内会区域の近藤牧場側にあり、昭和50年（1975年）に当時の雇用促進住宅新川宿舎（全8棟、290戸）の居住者により、雇用促進住宅新川自治会として発足しました。

自治会では、連合町内会に加入して他の町内会と同様の活動をしていましたが、活動の維持が難しくなったため、平成11年（1999年）限りで連合町内会を休会しています。

平成29年（2017年）には、雇用促進住宅制度が廃止され、全棟がビレッジハウス・マネジメント株式会社を買収されたことにより、同年に町内会名がビレッジハウス新川自治会に変わりました。





## ❖ 新川西札幌町内会

新川西札幌町内会は、昭和42年（1967年）に発足しました。町内会発足当時には10戸足らずの集落で、北電西札幌変電所所長であった大谷内巖氏が初代町内会長として就任されご尽力されました。

町内会発足後は町内会館が無く、北電変電所内の事務所兼休憩室の一部をお借りして活動拠点としておりました。

平成9年（1997年）に新川通りに面した場所に地域住民の希望でマルイマート新川店（現在のスーパーアークスエクスプレス新川店）が開店しました。その建物の3階部分の一角をテナントとして借り、「西札ふれあい会館」を開設して、新たな町内会の拠点ができ現在に至っています。

町内会は、平成29年（2017年）に創立50周年を迎え、会員と共に記念式典・祝賀会を開催し全世界に50周年記念誌「あゆみ」を配りました。現在の町内会地域は住宅が一気に増え、若い世代や2世帯同居の方も多く住まわれています。平均年齢も他地域より比較的若い年齢層が住む地域です。

町内会では、7つのサークルが曜日ごとに町内会館で活動をしております。行事は、春・秋の町内一斉清掃、町内会ウォーキング&焼き肉パーティ、ラジオ体操、夏祭り、日帰り旅行、敬老祝賀会、秋の文化祭「演芸の集い」、子ども会Xmasパーティ、新年会、小学校入学・卒業生の歓送迎会などを開催し、会員同士や家族が集まる機会を設けています。



## ❖ 新川公園町内会

新川公園町内会は、昭和37年（1962年）に戸数13戸で発足しました。町内会の区域は、手稲区と接する新川地区の最西端に位置し、発足当初は市街化調整区域のため、街灯、道路整備や除雪も不十分な「陸の孤島」状態でした。その後、昭和60年（1985年）に市街化区域に編入され、下水道を含めた生活環境の整備が進みました。

昭和54年（1979年）、戸数が150戸となり、2代目「新川公園会館」を建設しました。その後、平成2年（1990年）に2代目「新川公園会館」を建設し、町内会行事等で利用したり一般への貸し出しも行っています。また、平成26年（2014年）、札幌市より「指定避難所（地域）」の指定を受けております。

